HITACHI

JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 導入ガイド

JCSM02-0260-01

前書き

■ 対象サービス

＜ V02-00 以降＞

●ジョブ管理 - スタンダード

SD-527318103 JP1 Cloud Service/Job Management - Standard 02-00 以降

●ジョブ管理 - スタンダード リソース拡張オプション Level 1

SD-527318113 JP1 Cloud Service/Job Management - Standard Resource Expansion Option Level 1 02-00 以降

●ジョブ管理 - スタンダード リソース拡張オプション Level 2

SD-527318123 JP1 Cloud Service/Job Management - Standard Resource Expansion Option Level 2 02-00 以降

●ジョブ管理 - スタンダード リソース拡張オプション Level 3

SD-527318133 JP1 Cloud Service/Job Management - Standard Resource Expansion Option Level 3 02-00 以降

●ジョブ管理 - スタンダード ERP 連携オプション

SD-527318143 JP1 Cloud Service/Job Management - Standard ERP Integration Option 02-00 以降

●ジョブ管理 - スタンダード ディザスタリカバリオプション

SD-527318153 JP1 Cloud Service/Job Management - Standard Disaster Recovery Option 02-00 以降

●ジョブ管理 - エンタープライズ

SD-527318163 JP1 Cloud Service/Job Management - Enterprise 02-00 以降

●ジョブ管理 - エンタープライズ リソース拡張オプション Level 1

SD-527318173 JP1 Cloud Service/Job Management - Enterprise Resource Expansion Option Level 1 02-00 以降

●ジョブ管理 - エンタープライズ リソース拡張オプション Level 2

SD-527318183 JP1 Cloud Service/Job Management - Enterprise Resource Expansion Option Level 2 02-00 以降

●ジョブ管理 - エンタープライズ リソース拡張オプション Level 3

SD-527318193 JP1 Cloud Service/Job Management - Enterprise Resource Expansion Option Level 3 02-00 以降

●ジョブ管理 - エンタープライズ ERP 連携オプション

SD-5273181A3 JP1 Cloud Service/Job Management - Enterprise ERP Integration Option 02-00 以降

●システム管理 - スタンダード 小規模

SD-5273182G3 JP1 Cloud Service/System Management - Standard (Lite Edition) 02-40 以降

●システム管理 - スタンダード 小規模 追加ノード

SD-5273182H3 JP1 Cloud Service/System Management - Standard (Lite Edition) Additional Node 02-40 以降

●システム管理 - スタンダード 15 か月保存

SD-5273181L3 JP1 Cloud Service/System Management - Standard 15 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - スタンダード 24 か月保存

SD-5273181M3 JP1 Cloud Service/System Management - Standard 24 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - スタンダード 36 か月保存

SD-5273181N3 JP1 Cloud Service/System Management - Standard 36 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - スタンダード追加ノード 15 か月保存

SD-5273181P3 JP1 Cloud Service/System Management - Standard Additional Node 15 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - スタンダード追加ノード 24 か月保存

SD-5273181Q3 JP1 Cloud Service/System Management - Standard Additional Node 24 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - スタンダード追加ノード 36 か月保存

SD-5273181R3 JP1 Cloud Service/System Management - Standard Additional Node 36 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - エンタープライズ 小規模

SD-5273182J3 JP1 Cloud Service/System Management - Enterprise (Lite Edition) 02-40 以降

●システム管理 - エンタープライズ 小規模 追加ノード

SD-5273182K3 JP1 Cloud Service/System Management - Enterprise (Lite Edition) Additional Node 02-40 以降

●システム管理 - エンタープライズ 15 か月保存

SD-5273181S3 JP1 Cloud Service/System Management - Enterprise 15 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - エンタープライズ 24 か月保存

SD-5273181T3 JP1 Cloud Service/System Management - Enterprise 24 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - エンタープライズ 36 か月保存

SD-5273181U3 JP1 Cloud Service/System Management - Enterprise 36 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - エンタープライズ追加ノード 15 か月保存

SD-5273181V3 JP1 Cloud Service/System Management - Enterprise Additional Node 15 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - エンタープライズ追加ノード 24 か月保存

SD-5273181W3 JP1 Cloud Service/System Management - Enterprise Additional Node 24 Months Data Retention 02-00 以降

●システム管理 - エンタープライズ追加ノード 36 か月保存

SD-5273181X3 JP1 Cloud Service/System Management - Enterprise Additional Node 36 Months Data Retention 02-00 以降

＜ V01-12 以前＞

●プラットフォーム共通サービス - 初期構築

SD-P1F16-W16 JP1 Cloud Service/Platform Common Service - Initial Construction

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上，必要な手続きをお取りください。

なお，不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

記載の会社名，製品名などは，それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

マイクロソフトの許可を得て使用しています。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは，マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	正式名称
Internet Explorer	Windows(R) Internet Explorer(R)

■ 発行

2026 年 10 月　JCSM02-0260-01

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2023, 2026, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(JCSM02-0260-01)　JP1 Cloud Service　02-60

追加・変更内容	変更個所
本サービスで Oracle Cloud Infrastructure（OCI）をサポートした。	1.1，1.1.2，1.1.3，1.2.1，1.2.5
エンベロープ FROM の記載を追加した。	1.2.8

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，JP1 Cloud Service のジョブ管理・システム管理を利用する際の初期構築の手順や操作について説明したものです。事前にマニュアル「JP1 Cloud Service 基本ガイド」を参照し，サービスの概要を確認してください。

■ 対象読者

JP1 Cloud Service のジョブ管理・システム管理の初期構築をする方を対象としています。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章　ジョブ管理・システム管理の利用方法

JP1 Cloud Service のジョブ管理・システム管理を利用する際の初期構築の手順や操作について説明しています。

第 2 章　お客様所有 AWS Transit Gateway でのジョブ管理・システム管理の利用方法

お客様が所有している AWS Transit Gateway を利用してジョブ管理・システム管理に接続するために必要な手順について説明します。

付録 A　各バージョンの変更内容

各バージョンの変更内容について説明しています。

付録 B　このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

付録 C　用語解説

このマニュアルで使用する用語について説明しています。

■ マニュアルの表記

このマニュアルでは，バージョンごとにマニュアルの表記が異なります。次に，バージョンごとに表記が異なる点を示します。

01-12 版以前のマニュアルでの表記	このマニュアルでの表記
運用管理プラットフォーム	ジョブ管理・システム管理
ジョブ管理プラットフォーム	ジョブ管理
統合管理プラットフォーム	システム管理

また，このマニュアルでは，製品の正式名称と異なる表記があります。次に，このマニュアルでの表記と製品の正式名称が異なる点を次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
JP1/AJS3 - Agent [Agent]	JP1/AJS3 - Agent
JP1/AJS3 - Agent [Base]，JP1/AJS3 - Manager [Base]または，JP1/IM3 - Manager [Base]	JP1/Base
JP1/AJS3 - Manager [Manager]	JP1/AJS3 - Manager
JP1/AJS3 - View [View]	JP1/AJS3 - View

目次

前書き　2
変更内容　6
はじめに　7

1　ジョブ管理・システム管理の利用方法　11
1.1　システム構成　12
1.1.1　ネットワーク区域　13
1.1.2　お客様の環境との接続　13
1.1.3　システム構成例　15
1.2　接続方法　20
1.2.1　お客様が用意するもの　20
1.2.2　接続の手順（AWS の場合）　20
1.2.3　接続の手順（Azure の場合）　22
1.2.4　接続の手順（Google Cloud の場合）　24
1.2.5　接続の手順（OCI の場合）　26
1.2.6　接続の手順（インターネット接続の場合）（V02-00 以降）　28
1.2.7　接続確認の手順　28
1.2.8　その他の設定　29
1.3　操作方法　31

2　お客様所有 AWS Transit Gateway でのジョブ管理・システム管理の利用方法　32
2.1　お客様所有 AWS Transit Gateway を利用した接続とは　33
2.2　事前準備　34
2.2.1　お客様へ提供する情報　34
2.2.2　お客様が用意するもの　34
2.3　お客様が所有している AWS Transit Gateway でのジョブ管理・システム管理とお客様の環境との接続手順　35
2.3.1　接続作業の流れ　35
2.3.2　AWS Transit Gateway の共有　35
2.3.3　AWS Transit Gateway アタッチメントの接続　36
2.3.4　AWS Transit Gateway ルートテーブルの設定　36
2.3.5　その他の設定【お客様側作業】　37

付録　38
付録 A　各バージョンの変更内容　39

付録 A.1　02-60 の変更内容　39
付録 A.2　02-50 の変更内容　39
付録 A.3　02-40 の変更内容　39
付録 A.4　02-30 の変更内容　39
付録 A.5　02-20 の変更内容　39
付録 A.6　02-10 の変更内容　40
付録 A.7　02-01 の変更内容　40
付録 A.8　02-00 の変更内容　40
付録 A.9　01-12 の変更内容　40
付録 A.10　01-11 の変更内容　40
付録 A.11　01-10 の変更内容　40
付録 B　このマニュアルの参考情報　41
付録 B.1　製品名の表記　41
付録 C　用語解説　42

索引　44

1 ジョブ管理・システム管理の利用方法

JP1 Cloud Service のジョブ管理・システム管理を利用する際の初期構築の手順や操作について説明しています。

1.1　システム構成

ジョブ管理・システム管理を利用する場合のシステム構成を説明します。

ジョブ管理・システム管理で提供するマネージャー環境は AWS 上に構築します。※1

マネージャー環境とお客様の環境との接続には，お客様の環境に応じて以下を使用します。

- お客様が AWS のアカウントを保有している場合
  マネージャー環境とお客様の環境との接続に，AWS Transit Gateway を使用します。
  AWS Transit Gateway の詳細については，AWS の Web サイトを参照してください。
- お客様が Azure のアカウントを保有している場合
  マネージャー環境とお客様の環境との接続に，インターネット VPN を使用します。
  Azure におけるインターネット VPN 接続の詳細については，Azure の Web サイトを参照してください。
- お客様が Google Cloud アカウントを保有している場合
  マネージャー環境とお客様の環境との接続に，インターネット VPN を使用します。
  Google Cloud におけるインターネット VPN 接続の詳細については，Google Cloud の Web サイトを参照してください。
- お客様が Oracle Cloud アカウントを保有している場合
  マネージャー環境とお客様の環境との接続に，インターネット VPN を使用します。
  Oracle Cloud Infrastructure（以降，OCI）におけるインターネット VPN 接続の詳細については，Oracle の Web サイトを参照してください。
- お客様環境からインターネット接続する場合
  お客様環境からシステム管理マネージャーやサービスポータル，ジョブ管理マネージャーの JP1/AJS3 - Web Console にインターネットを使用して接続できます。※2

なお，マネージャー環境は「1.1.3 システム構成例」において，「JP1 Cloud Service の AWS アカウント」と記載された範囲を示します。お客様の環境は「お客様の AWS アカウント」や「お客様の Azure アカウント」，「お客様の Google Cloud アカウント※3」，「お客様の Oracle Cloud アカウント※4」，「インターネットからの接続」と記載された範囲を示します。

注※1　ジョブ管理およびシステム管理は IPv6 に対応していません。

注※2　JP1 Cloud Service V02-00 以降で利用できます。

注※3　JP1 Cloud Service V02-40 以降で利用できます。

注※4　JP1 Cloud Service V02-60 以降で利用できます。

1.1.1　ネットワーク区域

ジョブ管理・システム管理で提供するマネージャー環境のネットワークは，本番環境用や開発環境用といった用途ごとに分離できます。分離した各ネットワークを本書ではネットワーク区域と呼びます。

ネットワーク区域は，最大 5 つまで作成することができ，作成するネットワーク区域とその名称（本番環境や開発環境など）を本サービスの契約時に指定していただきます。ネットワーク区域の名称は，サービスポータルで環境種別として表示します。

1.1.2　お客様の環境との接続

(1)　お客様が AWS のアカウントを保有している場合

本サービスを利用いただく場合は，ジョブ管理・システム管理のネットワーク区域とお客様の環境を一つのインターフェース（AWS Transit Gateway）を介して接続する必要があります。AWS Transit Gateway は，ネットワーク区域ごとに本サービスが用意し，AWS Resource Access Manager でお客様の AWS アカウントに共有します。

お客様には，お客様の AWS アカウントにおいて，本サービスが共有する AWS Transit Gateway への接続設定を実施いただきます。接続設定が完了すると，各ネットワーク区域のマネージャー環境とお客様の環境とが接続され，ジョブ管理・システム管理による管理ができるようになります。

また，お客様の AWS アカウント以外のオンプレミス環境やその他のクラウド環境などについても，本サービスが共有する AWS Transit Gateway に各環境を接続することで，ジョブ管理・システム管理による管理ができるようになります。接続方法については，お客様の環境に合わせて専用線接続や VPN 接続などを選択することができます。

(2)　お客様が Azure のアカウントを保有している場合

本サービスを利用いただく場合は，ジョブ管理・システム管理のネットワーク区域とお客様の環境を，インターネット VPN を介して接続する必要があります。この接続は，ネットワーク区域ごとに用意する必要があります。

お客様には，お客様の Azure アカウントにおいて，本サービスが提供する接続用パラメータを基にしてインターネット VPN の接続設定を実施いただきます。接続設定が完了すると，各ネットワーク区域のマネージャー環境とお客様の環境とが接続され，ジョブ管理・システム管理による管理ができるようになります。

また，お客様の Azure アカウント以外のオンプレミス環境やその他のクラウド環境などについても，本サービスとインターネット VPN で接続された Azure 環境に各環境を接続することで，ジョブ管理・システム管理による管理ができるようになります。接続方法については，お客様の環境に合わせて専用線接続や VPN 接続などを選択することができます。

(3)　お客様が Google Cloud のアカウントを所有している場合

本サービスを利用いただく場合は，ジョブ管理・システム管理のネットワーク区域とお客様の環境を，インターネット VPN を介して接続する必要があります。この接続は，ネットワーク区域ごとに用意する必要があります。

お客様には，お客様の Google Cloud アカウントにおいて，本サービスが提供する接続用パラメータを基にしてインターネット VPN の接続設定を実施いただきます。接続設定が完了すると，各ネットワーク区域のマネージャー環境とお客様の環境とが接続され，ジョブ管理・システム管理による管理ができるようになります。

また，お客様の Google Cloud アカウント以外のオンプレミス環境やその他のクラウド環境などについても，本サービスとインターネット VPN で接続された Google Cloud 環境に各環境を接続することで，ジョブ管理・システム管理による管理ができるようになります。接続方法については，お客様の環境に合わせて専用線接続や VPN 接続などを選択することができます。

(4)　お客様が Oracle Cloud のアカウントを所有している場合

本サービスを利用いただく場合は，ジョブ管理・システム管理のネットワーク区域とお客様の環境を，インターネット VPN を介して接続する必要があります。この接続は，ネットワーク区域ごとに用意する必要があります。

お客様には，お客様の Oracle Cloud アカウントにおいて，本サービスが提供する接続用パラメータを基にしてインターネット VPN の接続設定を実施いただきます。接続設定が完了すると，各ネットワーク区域のマネージャー環境とお客様の環境とが接続され，ジョブ管理・システム管理による管理ができるようになります。

また，お客様の Oracle Cloud アカウント以外のオンプレミス環境やその他のクラウド環境などについても，本サービスとインターネット VPN で接続された OCI 環境に各環境を接続することで，ジョブ管理・システム管理による管理ができるようになります。接続方法については，お客様の環境に合わせて専用線接続や VPN 接続などを選択することができます。

(5)　インターネットから接続する場合

本サービスでは，内部ネットワーク接続だけでなく，お客様の環境からインターネット接続することができます。

サービスポータルやジョブ管理マネージャーの JP1/AJS3 - Web Console，システム管理マネージャーの統合オペレーション・ビューアーなどに接続できるインターネット接続環境を提供します。インターネット接続する際，ワンタイムパスワードでの多要素認証をする必要があります。

お客様には，多要素認証設定を実施いただきます。接続設定が完了すると，インターネットから本サービスにアクセスできるようになります。

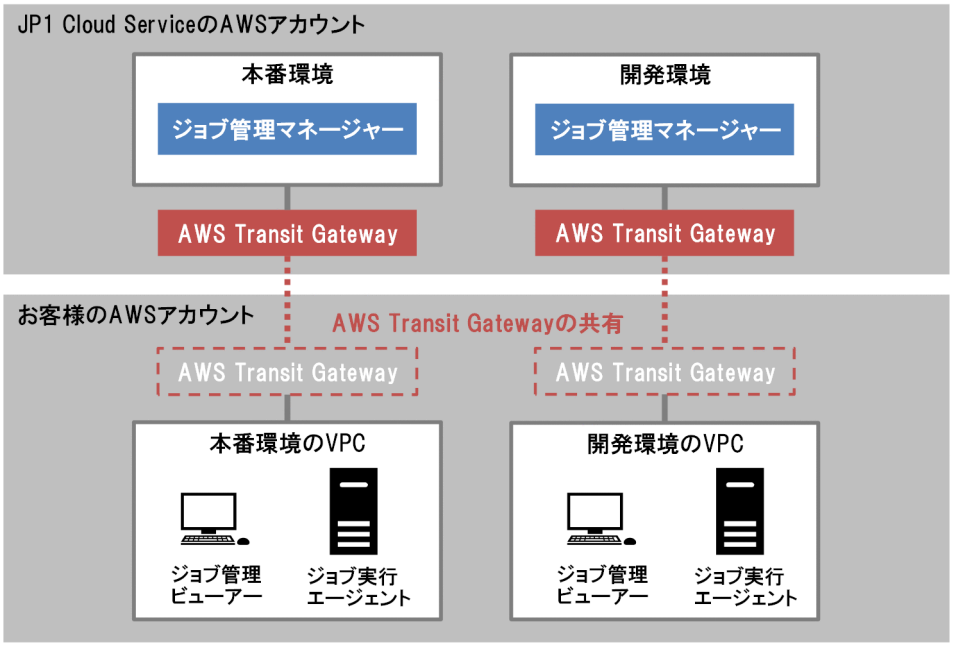
なお，インターネット接続で JP1/AJS3 - Web Console に接続するためには「システム管理」を契約する必要があります。

1.1.3　システム構成例

(1)　AWS 環境でサーバが稼働している場合

お客様のジョブ実行エージェント等のサーバが AWS 上で稼働し，本番環境用と開発環境用にネットワーク区域を分けてジョブ管理を使用するシステムの構成例を次に示します。システム管理の場合も同様のシステム構成で利用できます。

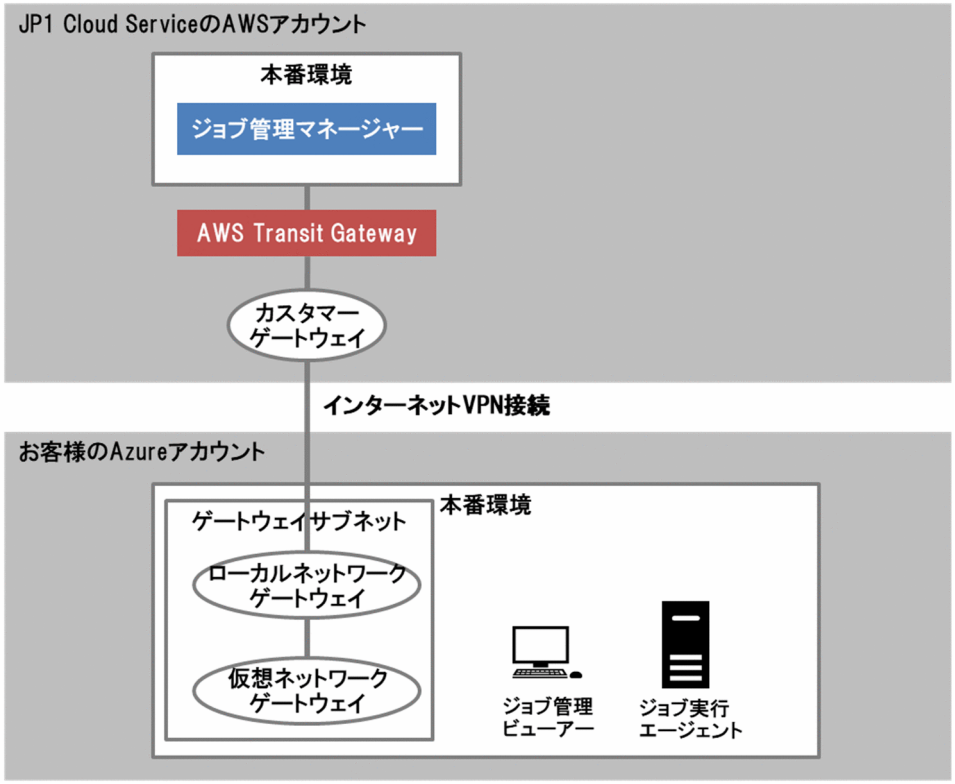
本サービスが共有する AWS Transit Gateway にお客様の VPC をアタッチすることで，本サービスとお客様の AWS 環境の間の通信ができます。



(2)　Azure 環境でサーバが稼働している場合

お客様のジョブ実行エージェント等のサーバが Azure 上で稼働し，インターネット VPN で接続してジョブ管理を使用するシステムの構成例を次に示します。システム管理の場合も同様のシステム構成で利用できます。

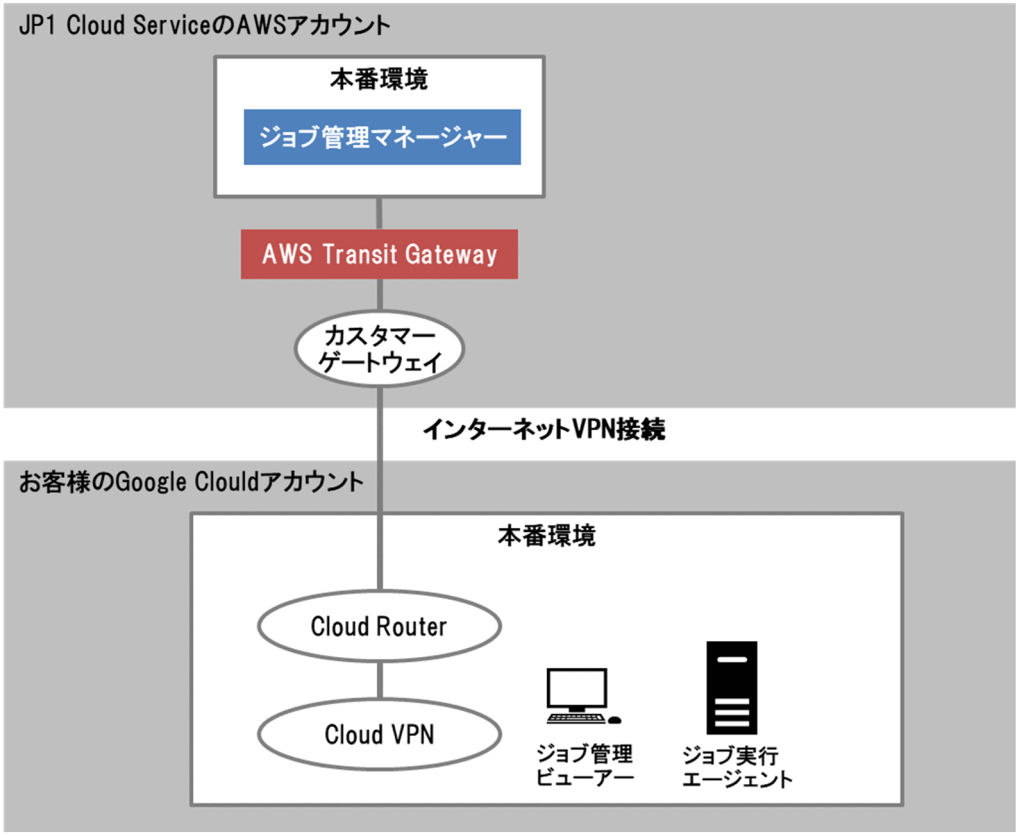
本サービスが提供する接続用パラメータを基にして，お客様の Azure 環境にインターネット VPN の接続設定をすることで，本サービスとお客様の Azure 環境の間の通信ができます。



(3)　Google Cloud 環境でサーバ稼働している場合

お客様のジョブ実行エージェント等のサーバが Google Cloud 上で稼働し，インターネット VPN で接続してジョブ管理を使用するシステムの構成例を次に示します。システム管理の場合も同様のシステム構成で利用できます。

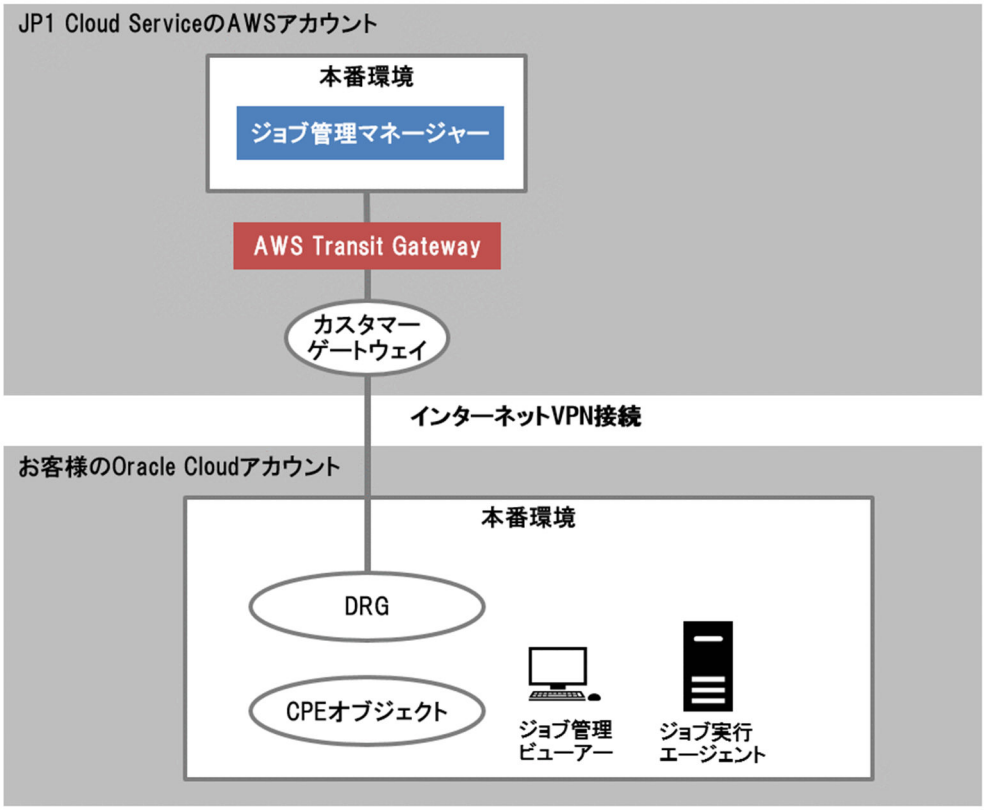
本サービスが提供する接続用パラメータを基にして，お客様の Google Cloud 環境にインターネット VPN の接続設定をすることで，本サービスとお客様の Google Cloud 環境の間の通信ができます。



(4)　OCI 環境でサーバ稼働している場合

お客様のジョブ実行エージェント等のサーバが OCI 上で稼働し，インターネット VPN で接続してジョブ管理を使用するシステムの構成例を次に示します。システム管理の場合も同様のシステム構成で利用できます。

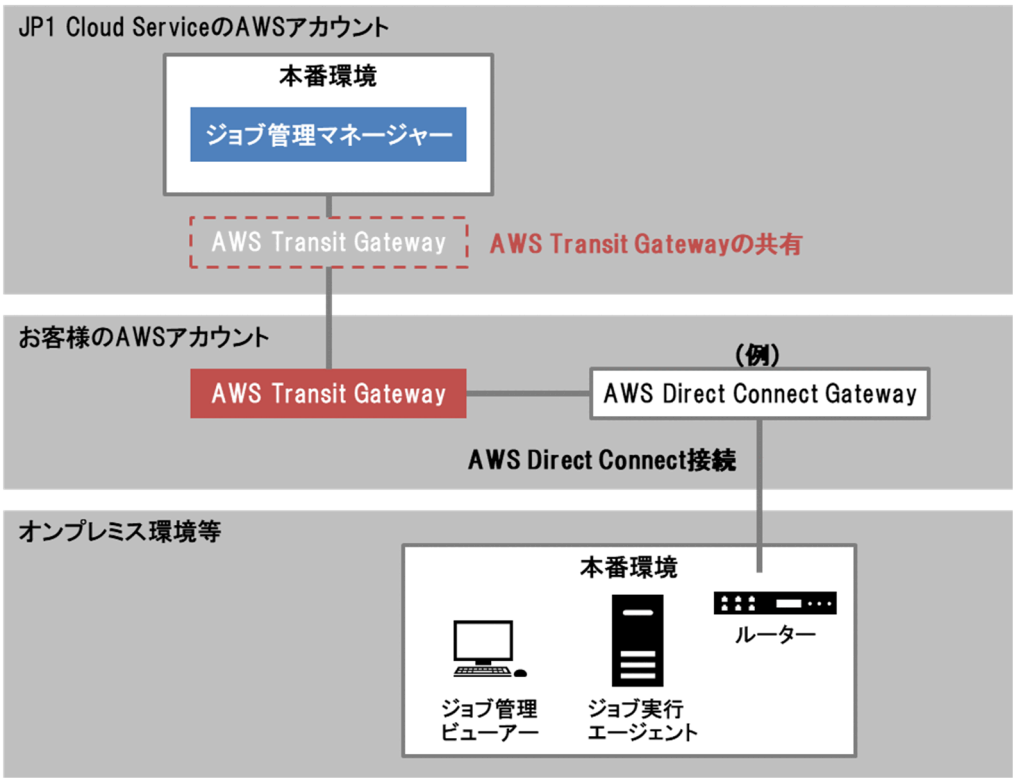
本サービスが提供する接続用パラメータを基にして，お客様の OCI 環境にインターネット VPN の接続設定をすることで，本サービスとお客様の OCI 環境の間の通信ができます。



(5)　その他の環境でサーバが稼働している場合

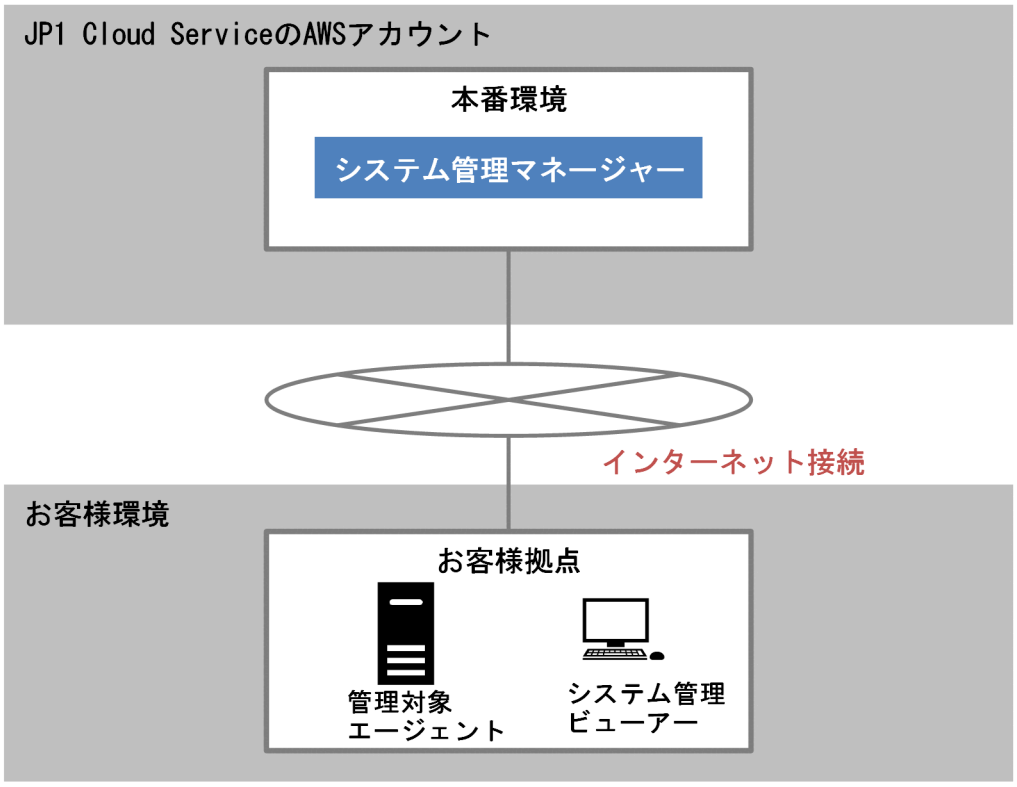
お客様のジョブ実行エージェント等のサーバがオンプレミス環境で稼働し，AWS Direct Connect で接続してジョブ管理を使用するシステムの構成例を次に示します。システム管理の場合も同様のシステム構成で利用できます。

お客様側の AWS Transit Gateway を共有いただくことで，お客様側の AWS 環境を経由してオンプレミス環境に AWS Direct Connect Gateway による接続を行ったり，AWS や Azure，Google Cloud 以外のクラウド環境に VPN 接続を行ったりすることで，本サービスとの通信ができます。



(6)　インターネット経由で接続する場合（V02-00 以降）

お客様環境からインターネット接続してシステム管理を使用するシステムの構成例を次に示します。なお，ジョブ管理では，「システム管理」を契約することでジョブ管理マネージャーの JP1/AJS3 - Web Console にインターネットを使用して接続することができます。



1.2　接続方法

ジョブ管理・システム管理のマネージャー環境との接続方法を説明します。

1.2.1　お客様が用意するもの

ジョブ管理・システム管理を使用する場合は，AWS アカウントまたは Azure アカウント，Google Cloud アカウント，Oracle Cloud アカウントが必要です。AWS や Azure，Google Cloud，Oracle Cloud の手続きに従いアカウントを取得してください。

また，オンプレミス環境やその他のクラウド環境を管理するために AWS Direct Connect や VPN などを使用する場合は，それぞれの環境ごとに接続の準備をしてください。

1.2.2　接続の手順（AWS の場合）

本サービス利用開始時のヒアリングシートにおいて，お客様の AWS アカウント ID を記入いただきます。上記の情報を基に，本サービスで AWS Resource Access Manager によってお客様の AWS アカウントに AWS Transit Gateway を共有します。お客様の AWS アカウントにおいて，上記 AWS Transit Gateway を有効にし，AWS がサポートする接続方法に従い AWS Transit Gateway とお客様の環境を接続してください。手順を以下に示します。なお，AWS の操作手順については，AWS の Web サイトを参照してください。

(1)　AWS Transit Gateway の共有の承認

本サービスが共有する AWS Transit Gateway をお客様の AWS アカウントで有効にし，AWS Transit Gateway を利用できる状態にしてください。

(2)　AWS Transit Gateway への接続

AWS 環境やオンプレミス環境，AWS 以外のクラウド環境などのお客様の環境と AWS Transit Gateway を接続します。

お客様の環境に合わせた接続方法の Transit Gateway Attachment を作成し，お客様の環境を AWS Transit Gateway にアタッチしてください。

また，本サービスが共有する AWS Transit Gateway に対して，ルーティングの設定を行ってください。

(3)　DNS の設定

(a)　ジョブ実行エージェントからマネージャー環境への名前解決

ジョブ管理・システム管理のマネージャー環境の名前解決のために，お客様の環境でパブリックの DNS を参照してください。インターネットまたは AWS が提供する DNS 機構（AmazonProvidedDNS）などが利用できます。

(b)　マネージャー環境からジョブ実行エージェントへの名前解決

マネージャー環境からジョブ実行エージェントへの名前解決を行う方法として，以下の 2 種類の方式を利用できます。

- サービスポータルでお客様側環境のホスト情報を登録する方式※1
- お客様側のパブリック DNS を参照する方式※2

お客様側のパブリック DNS 参照に関する注意事項は以下のとおりです。

注意事項

- サービスポータルと同じレコードを DNS に登録すると，名前解決時にサービスポータルのホスト情報が優先されます。
- クラスタ構成時は，DNS レコードの TTL（Time To Live）を 60 秒程度の短い値に設定することが推奨されます。
- ディザスタリカバリオプションを契約しており，現用環境と災対環境を切り替え・切り戻しした場合，お客様側で DNS レコードの設定の変更をお願いします。

注※1

登録方法については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「7.2　ホスト情報一覧（V02-00 以降）」の「7.2.2　新規登録」を参照してください。

注※2

この方式を利用するには，お客様側のパブリック DNS ドメイン名をヒアリングシートにご記入ください。現用環境と災対環境などで使い分けしたい場合は，複数のドメイン名を登録してください。

(4)　マネージャー環境で使用する IP アドレスの通信許可

お客様の環境で，ジョブ管理・システム管理で使用する IP アドレスの通信を許可してください。

マネージャー環境で使用する IP アドレスは，サービス利用ガイドの手順に従い，「ご利用環境情報（ジョブ管理・システム管理）」を入手して確認してください。

(5)　マネージャー環境で使用するポートの通信許可

お客様の環境で，ジョブ管理・システム管理で使用するポートの通信を許可してください。

通信許可が必要なポート番号については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理 利用ガイド」および「JP1 Cloud Service システム管理 利用ガイド」を参照してください。

1.2.3　接続の手順（Azure の場合）

お客様の Azure 環境に仮想ネットワークゲートウェイを作成してください。本サービス利用開始時のヒアリングシートにおいて，以下に示すインターネット VPN 接続に必要な仮想ネットワークゲートウェイに関する情報を記入いただきます。

- 仮想ネットワークゲートウェイに設定された自律システム番号（ASN）
- 仮想ネットワークゲートウェイに設定されたパブリック IP アドレス（接続を冗長化する場合は 2 つ）

上記の情報を基に，本サービスで接続用パラメータを生成してお客様に提供します。この接続用パラメータを基に，お客様の Azure アカウントにおいてインターネット VPN の接続設定を行い，本サービスとお客様の環境を接続してください。手順を以下に示します。なお，Azure の操作手順については，Azure の Web サイトを参照してください。

(1)　仮想ネットワークゲートウェイへの設定追加

ヒアリングシートに情報を記入いただいた Azure 環境の仮想ネットワークゲートウェイに対して，本サービスで提供される「ご利用環境情報（ジョブ管理・システム管理）」に記載された接続用パラメータの情報に従い，「カスタムの BGP IP アドレス」に値を設定してください。接続を冗長化する場合は，「2 番目のカスタムの BGP IP アドレス」についても設定してください。

(2)　ローカルネットワークゲートウェイの作成

VPN 接続における認証機能および通信用トンネルの設定を行うために，Azure 環境にローカルネットワークゲートウェイを新規に作成してください。作成にあたり，本サービスで提供される「ご利用環境情報（ジョブ管理・システム管理）」に記載された接続用パラメータの情報に従って以下の項目に値を設定してください。

- IP アドレス
- 自律システム番号（ASN）
- BGP ピアの IP アドレス

接続を冗長化する場合は，ローカルネットワークゲートウェイを 2 つ作成してください。

(3)　VPN 接続の作成

Azure 環境に VPN 接続を新規に作成してください。作成にあたり，本サービスで提供される「ご利用環境情報（ジョブ管理・システム管理）」に記載された接続用パラメータの情報に従って「共有キー（PSK）」に値を設定してください。接続を冗長化する場合は，VPN 接続を 2 つ作成してください。

(4)　DNS の設定

(a)　ジョブ実行エージェントからマネージャー環境への名前解決

ジョブ管理・システム管理のマネージャー環境の名前解決のために，お客様の環境でパブリックの DNS を参照してください。

(b)　マネージャー環境からジョブ実行エージェントへの名前解決

マネージャー環境からジョブ実行エージェントへの名前解決を行う方法として，以下の 2 種類の方式を利用できます。

- サービスポータルでお客様側環境のホスト情報を登録する方式※1
- お客様側のパブリック DNS を参照する方式※2

お客様側のパブリック DNS 参照に関する注意事項は以下のとおりです。

注意事項

- サービスポータルと同じレコードを DNS に登録すると，名前解決時にサービスポータルのホスト情報が優先されます。
- クラスタ構成時は，DNS レコードの TTL（Time To Live）を 60 秒程度の短い値に設定することが推奨されます。
- ディザスタリカバリオプションを契約しており，現用環境と災対環境を切り替え・切り戻しした場合，お客様側で DNS レコードの設定の変更をお願いします。

注※1

登録方法については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「7.2.2　新規登録」を参照してください。

注※2

この方式を利用するには，お客様側のパブリック DNS ドメイン名をヒアリングシートにご記入ください。現用環境と災対環境などで使い分けしたい場合は，複数のドメイン名を登録してください。

(5)　マネージャー環境で使用する IP アドレスの通信許可

お客様の環境で，ジョブ管理・システム管理で使用する IP アドレスの通信を許可してください。

マネージャー環境で使用する IP アドレスは，サービス利用ガイドの手順に従い，「ご利用環境情報（ジョブ管理・システム管理）」を入手して確認してください。

(6)　マネージャー環境で使用するポートの通信許可

お客様の環境で，ジョブ管理・システム管理で使用するポートの通信を許可してください。

通信許可が必要なポート番号については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理 利用ガイド」および「JP1 Cloud Service システム管理 利用ガイド」を参照してください。

1.2.4　接続の手順（Google Cloud の場合）

お客様には，Google Cloud 環境において以下のリソースを事前に作成していただく必要があります。

- Cloud Router
- Cloud VPN

これらのリソースの構築が完了しましたら，サービス利用開始時にご提出いただくヒアリングシートへ以下の情報をご記入ください。

- Cloud Router に設定された自律システム番号（ASN）
- Cloud VPN に設定されたパブリック IP アドレス（冗長構成の場合は 2 つ）

お客様から提供されたパブリック IP アドレスおよび ASN 番号をもとに，JP1 Cloud Service 側にて以下の作業を実施します。

- カスタマーゲートウェイの作成
- お客様接続用に準備された Transit Gateway（TGW）への VPN アタッチメントの紐づけ
- VPN 接続の構築

JP1 Cloud Service 側での VPN 接続の構築完了後，お客様の Google Cloud 側での VPN 設定に必要なパラメータをお客様へ提供いたします。

提供された接続用パラメータをもとに，お客様の Google Cloud アカウントにて VPN 接続の設定を行ってください。設定手順の詳細については，Google Cloud の公式ドキュメントをご参照ください。

(1)　VPN トンネルの追加

Cloud VPN に対しての，既存または新規の VPN ゲートウェイに対して VPN トンネルを追加します。対向側の IP アドレスや共有シークレットなどの基本情報を入力し，ルーティング方式（静的または動的）を選択します。

(2)　ピア VPN ゲートウェイの作成

JP1 Cloud Service 側の VPN 機器情報をもとに，ピア VPN ゲートウェイを作成します。IP アドレス（JP1 Cloud Service 側の VPN 機器の IP アドレス）などの必要情報を登録します。

(3)　BGP セッションの作成

動的ルーティングを使用する場合は，VPN トンネルに対して BGP セッションを追加します。ローカル ASN（Google Cloud 側の ASN），ピア ASN（JP1 Cloud Service 側の ASN），BGP IP アドレスなどを設定し，BGP セッションの作成をします。作成後，BGP セッションが確立されることを確認します。セッションが確立しない場合は，IP アドレスや ASN，ファイアウォール設定などを確認してください。

(4)　DNS の設定

(a)　ジョブ実行エージェントからマネージャー環境への名前解決

ジョブ管理・システム管理のマネージャー環境の名前解決のために，お客様の環境でパブリックの DNS を参照してください。

(b)　マネージャー環境からジョブ実行エージェントへの名前解決

マネージャー環境からジョブ実行エージェントへの名前解決を行う方法として，以下の 2 種類の方式を利用できます。

- サービスポータルでお客様側環境のホスト情報を登録する方式※1
- お客様側のパブリック DNS を参照する方式※2

お客様側のパブリック DNS 参照に関する注意事項は以下のとおりです。

注意事項

- サービスポータルと同じレコードを DNS に登録すると，名前解決時にサービスポータルのホスト情報が優先されます。
- クラスタ構成時は，DNS レコードの TTL（Time To Live）を 60 秒程度の短い値に設定することが推奨されます。
- ディザスタリカバリオプションを契約しており，現用環境と災対環境を切り替え・切り戻しした場合，お客様側で DNS レコードの設定の変更をお願いします。

注※1

登録方法については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「7.2.2　新規登録」を参照してください。

注※2

この方式を利用するには，お客様側のパブリック DNS ドメイン名をヒアリングシートにご記入ください。現用環境と災対環境などで使い分けしたい場合は，複数のドメイン名を登録してください。

(5)　マネージャー環境で使用する IP アドレスの通信許可

お客様の環境で，ジョブ管理・システム管理で使用する IP アドレスの通信を許可してください。

マネージャー環境で使用する IP アドレスは，サービス利用ガイドの手順に従い，「ご利用環境情報（ジョブ管理・システム管理）」を入手して確認してください。

(6)　マネージャー環境で使用するポートの通信許可

お客様の環境で，ジョブ管理・システム管理で使用するポートの通信を許可してください。

通信許可が必要なポート番号については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理 利用ガイド」および「JP1 Cloud Service システム管理 利用ガイド」を参照してください。

1.2.5　接続の手順（OCI の場合）

お客様にリソースを作成いただく前に，JP1 Cloud Service 側にて以下の作業を実施いたします。

- 一時カスタマーゲートウェイの作成
- お客様接続用に準備された Transit Gateway（TGW）への VPN アタッチメントの紐づけ
- VPN 接続の作成

上記の作業が完了しましたら，OCI 環境での VPN 接続設定に必要なパラメータをお客様へ提供いたします。

提供された接続用パラメータをもとに，お客様の Oracle Cloud アカウントにて以下のリソース作成をお願いいたします。

作成手順の詳細については，Oracle Cloud の公式ドキュメントをご参照ください。

- CPE オブジェクトの作成
- IPSec 接続の作成

上記のリソース作成が完了しましたら，JP1 Cloud Service 側へ以下の情報提供をお願いいたします。

- OCI BGP ASN
- Oracle VPN IP アドレス（冗長構成の場合は 2 つ）

お客様から提供された OCI BGP ASN および Oracle VPN IP アドレスをもとに，JP1 Cloud Service 側にてカスタマーゲートウェイを再作成，VPN 接続の設定を実施いたします。

設定完了後，VPN 接続がご利用可能になります。

はじめに作成した一時カスタマーゲートウェイは削除いたします。

(1)　CPE オブジェクトの作成

JP1 Cloud Service 側の VPN 機器情報をもとに，CPE オブジェクトを作成します。IP アドレス（JP1 Cloud Service 側の VPN 機器の IP アドレス）などの必要情報を登録します。

(2)　IPSec 接続の作成

既存または新規の DRG に対して IPSec 接続を作成します。対向側の IP アドレスや事前共有キーなどの基本情報を入力し，ルーティング方式（静的または動的）を選択します。

動的ルーティングを使用する場合は，IPSec 接続作成時のルーティング・タイプで BGP を選択します。設定後，接続が確立されることを確認します。接続が確立しない場合は，IP アドレスや ASN，ファイアウォール設定などを確認してください。

(3)　DNS の設定

(a)　ジョブ実行エージェントからマネージャー環境への名前解決

ジョブ管理・システム管理のマネージャー環境の名前解決のために，お客様の環境でパブリックの DNS を参照してください。

(b)　マネージャー環境からジョブ実行エージェントへの名前解決

マネージャー環境からジョブ実行エージェントへの名前解決を行う方法として，以下の 2 種類の方式を利用できます。

- サービスポータルでお客様側環境のホスト情報を登録する方式※1
- お客様側のパブリック DNS を参照する方式※2

お客様側のパブリック DNS 参照に関する注意事項は以下のとおりです。

注意事項

- サービスポータルと同じレコードを DNS に登録すると，名前解決時にサービスポータルのホスト情報が優先されます。
- クラスタ構成時は，DNS レコードの TTL（Time To Live）を 60 秒程度の短い値に設定することが推奨されます。
- ディザスタリカバリオプションを契約しており，現用環境と災対環境を切り替え・切り戻しした場合，お客様側で DNS レコードの設定の変更をお願いします。

注※1

登録方法については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「7.2.2　新規登録」を参照してください。

注※2

この方式を利用するには，お客様側のパブリック DNS ドメイン名をヒアリングシートにご記入ください。現用環境と災対環境などで使い分けしたい場合は，複数のドメイン名を登録してください。

(4)　マネージャー環境で使用する IP アドレスの通信許可

お客様の環境で，ジョブ管理・システム管理で使用する IP アドレスの通信を許可してください。

マネージャー環境で使用する IP アドレスは，サービス利用ガイドの手順に従い，「ご利用環境情報（ジョブ管理・システム管理）」を入手して確認してください。

(5)　マネージャー環境で使用するポートの通信許可

お客様の環境で，ジョブ管理・システム管理で使用するポートの通信を許可してください。

通信許可が必要なポート番号については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理 利用ガイド」および「JP1 Cloud Service システム管理 利用ガイド」を参照してください。

1.2.6　接続の手順（インターネット接続の場合）（V02-00 以降）

(1)　インターネット接続に使用するポートの通信許可

お客様の環境で，インターネット接続に使用するポートの通信を許可してください。

通信許可が必要なポート番号については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理 利用ガイド」および「JP1 Cloud Service システム管理 利用ガイド」を参照してください。

(2)　ジョブ管理にインターネット接続する手順

ジョブ管理へインターネット接続する手順については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理 利用ガイド」における「4.2 インターネット経由で JP1/AJS3 - Web Console へ接続（V02-00 以降）」を参照してください。なお，インターネット接続で JP1/AJS3 - Web Console に接続するためには「システム管理」を契約する必要があります。

(3)　システム管理にインターネット接続する手順

システム管理へインターネット接続する手順については，マニュアル「JP1 Cloud Service システム管理 利用ガイド」における「3.6 インターネット経由で統合オペレーション・ビューアーへ接続（V02-00 以降）」を参照してください。

(4)　サービスポータルにインターネット接続する手順

サービスポータルへインターネット接続する手順については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「2.1 ログインとログアウト」を参照してください。

1.2.7　接続確認の手順

ジョブ管理・システム管理のマネージャー環境とお客様の環境が接続できていることを確認します。

操作手順

1. Web ブラウザーを開く。※1
2. サービスポータルの URL にアクセスする。※2
3. サービスポータルのログイン画面が表示されることを確認する。

注※1

利用可能な Web ブラウザーについては，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」の「1.1 利用可能な Web ブラウザー」を参照してください。

注※2

サービスポータルの URL，ユーザー ID および初期パスワードは，サービス利用ガイドの手順に従い，「ご利用環境情報（ジョブ管理・システム管理）」を入手して確認してください。

1.2.8　その他の設定

(1)　ジョブ実行エージェントでの DNS サフィックスの設定

ジョブ管理を利用する場合は，ジョブ実行エージェントにジョブ管理マネージャーの DNS サフィックスを設定してください。

設定する DNS サフィックスは，ジョブ実行エージェントの管理元となるジョブ管理マネージャーの接続ホスト名から左端のホスト名を除いた文字列です。例えば，ジョブ管理マネージャーの接続ホスト名が「ajs-mgr01.01.02.jp1cs.com」の場合は，ホスト名が「ajs-mgr01」で，DNS サフィックスが「01.02.jp1cs.com」になります。ジョブ管理マネージャーの接続ホスト名は，サービス利用ガイドの手順に従い，「ご利用環境情報（ジョブ管理・システム管理）」を入手して確認してください。

操作手順

1. ジョブ実行エージェントに DNS サフィックスを設定してください。※
2. ジョブ実行エージェントで「ping ホスト名」を実行して名前解決できることを確認してください。

注※

DNS サフィックスの設定方法については，ジョブ実行エージェントが稼働する OS ごとの設定方法を確認してください。

(2)　ドメインの許可

ジョブ管理・システム管理では，次のドメインからメールを送信します。また，メール配送の信頼性向上のため，エンベロープ FROM としてサブドメインを使用しています。受信可能なメールアドレスを制限している場合は，次のドメインおよびそのサブドメインからのメールを受信できるように設定してください。

#	ドメイン	用途
1	hitachi.co.jp hitachi.com	• 新規契約時またはサービス変更の際のネットワーク等の情報を連絡 • 障害や復旧の連絡 • 緊急メンテナンスやメンテナンス日変更の連絡
2	jp1cs.com	システム管理のメール通知機能による通知
3	bounce.jp1cs.com	jp1cs.com から配信するメールにエンベロープ FROM として設定するサブドメイン

(3)　運用開始後の接続環境の変更

本サービスによる運用を開始した後に，本サービスが共有する AWS Transit Gateway や本サービスとのインターネット VPN 接続に対して次の変更を行う場合は，サービス側での設定作業が必要となりますので，サービス窓口に連絡してください。サービス窓口の利用方法は，サービス利用ガイドを確認してください。

- 新たにお客様の環境を接続する
- 接続していた環境を廃止する

1.3　操作方法

ジョブ管理・システム管理のマネージャー環境とお客様の環境を接続後は，お客様の環境からサービスポータルが使用できるようになります。

マネージャー環境のネットワークからお客様環境のネットワークへのルーティング設定について，初期構築時の設定から追加などが必要な場合には，サービスポータルを使用してルーティングの設定を行ってください。サービスポータルでは，本サービスが共有する AWS Transit Gateway にアタッチしている Transit Gateway Attachment ごとにルーティングの設定ができます。ルーティングの設定については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」の「1.3.7 ネットワークの操作」を参照してください。

ルーティングの設定後，各プラットフォームの操作ができるようになります。各プラットフォームの操作方法については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理 利用ガイド」および「JP1 Cloud Service システム管理 利用ガイド」を参照してください。

2 お客様所有 AWS Transit Gateway でのジョブ管理・システム管理の利用方法

お客様が所有している AWS Transit Gateway を利用してジョブ管理・システム管理に接続するために必要な手順について説明します。

2.1　お客様所有 AWS Transit Gateway を利用した接続とは

JP1 Cloud Service では，お客様が AWS のアカウントを所有している場合，お客様所有の AWS Transit Gateway を介してお客様の環境とジョブ管理・システム管理を接続することができます。

この章では，お客様が所有している AWS Transit Gateway を JP1 Cloud Service 側に共有いただくことによってお客様の環境とジョブ管理・システム管理を接続する方法を説明します。この接続方法を採用し，お客様が所有している AWS Transit Gateway に JP1 Cloud Service を含む各システムの接続を集約することで，接続構成の簡略化につながります。

2.2　事前準備

2.2.1　お客様へ提供する情報

JP1 Cloud Service からお客様へ提供する情報を以下に示します。

#	提供情報	説明
1	AWS アカウント ID	JP1 Cloud Service のジョブ管理・システム管理が使用する AWS アカウント ID です。
2	IP アドレス（CIDR）	JP1 Cloud Service のジョブ管理・システム管理が使用する IP アドレスの範囲です。

2.2.2　お客様が用意するもの

お客様が用意する必要のあるものを以下に示します。

#	用意するもの	説明
1	AWS アカウント	ジョブ管理・システム管理と接続するためのお客様の AWS アカウントです。
2	AWS Transit Gateway	ジョブ管理・システム管理と接続するためのお客様の AWS アカウント上にある AWS Transit Gateway です。

2.3　お客様が所有している AWS Transit Gateway でのジョブ管理・システム管理とお客様の環境との接続手順

お客様が所有している AWS Transit Gateway を利用してジョブ管理・システム管理に接続する手順について説明します。なお，AWS の操作手順については，AWS の Web サイトを参照してください。

2.3.1　接続作業の流れ

接続作業の流れを以下に示します。

#	作業概要	作業詳細	作業分担
1	AWS Transit Gateway の共有	共有の申請	お客様
2		共有の承認	JP1 Cloud Service
3	AWS Transit Gateway アタッチメントの接続	アタッチメントの作成	JP1 Cloud Service
4		アタッチメントの承認	お客様
5	AWS Transit Gateway ルートテーブルの設定	ルートテーブルの作成	お客様
6		ルートテーブルとアタッチメントの関連付け	お客様
7		ルートテーブルのルーティング設定	お客様
8	その他の設定	–	お客様

2.3.2　AWS Transit Gateway の共有

お客様が所有している AWS Transit Gateway を JP1 Cloud Service 側に共有する手順を説明します。

(1)　共有の申請【お客様側作業】

AWS Resource Access Manager を利用し，お客様が所有している AWS Transit Gateway を JP1 Cloud Service 側に共有してください。共有の際に設定が必要な情報を以下に示します。

#	項目名	設定値	説明
1	リソースタイプ	トランジットゲートウェイ	AWS Transit Gateway を共有リソースとします。
2	アクセス許可 - プリンシパル	AWS アカウント	AWS アカウントを認証手段とします。
3	アクセス許可 - AWS アカウント ID	JP1 Cloud Service から提供する AWS アカウント ID	「2.2.1 お客様へ提供する情報」の表#1 に示す AWS アカウント ID を指定します。

(2)　共有の承認【JP1 Cloud Service 側作業】

お客様から共有された AWS Transit Gateway を JP1 Cloud Service 側で承認します。

2.3.3　AWS Transit Gateway アタッチメントの接続

JP1 Cloud Service のジョブ管理・システム管理をお客様から共有された AWS Transit Gateway に関連付けるために，AWS Transit Gateway アタッチメントを作成し，承認します。

(1)　アタッチメントの作成【JP1 Cloud Service 側作業】

JP1 Cloud Service 側で AWS Transit Gateway アタッチメントを作成します。作成後には自動的にお客様の AWS アカウントへ承認依頼が通知されますが，別途 JP1 Cloud Service 側からお客様側へ完了連絡するとともに，承認対象のアタッチメントの ID を連絡します。

(2)　アタッチメントの承認【お客様側作業】

JP1 Cloud Service 側からのアタッチメント作成完了連絡を受領した後，承認対象のアタッチメントの ID を確認し，アタッチメントの承認をしてください。承認することにより，アタッチメントの状態が「Pending Acceptance」から「Available」となることを確認してください。

2.3.4　AWS Transit Gateway ルートテーブルの設定

AWS Transit Gateway アタッチメントの承認による接続完了後，AWS Transit Gateway ルートテーブルを作成し，AWS Transit Gateway アタッチメントに関連付けて必要な経路情報を設定します。

(1)　ルートテーブルの作成【お客様側作業】

JP1 Cloud Service 側で作成した AWS Transit Gateway アタッチメントに関連付けるための，AWS Transit Gateway ルートテーブルを新規に作成してください。

(2)　ルートテーブルとアタッチメントの関連付け【お客様側作業】

お客様側で作成した AWS Transit Gateway ルートテーブルと，JP1 Cloud Service 側で作成した AWS Transit Gateway アタッチメントとの関連付けをしてください。

(3)　ルートテーブルのルーティング設定【お客様側作業】

お客様側で作成した AWS Transit Gateway ルートテーブルに必要な経路情報を設定してください。その際，JP1 Cloud Service 側からの通信がお客様側の適切な環境へ振り分けられるように設定してください。

また，お客様側の環境から JP1 Cloud Service 側への通信が，JP1 Cloud Service 側で作成した AWS Transit Gateway アタッチメントに振り分けられるように，お客様側の既存 AWS Transit Gateway ルートテーブル等に経路情報を設定してください。なお，この経路情報には「2.2.1 お客様へ提供する情報」の表#2 で JP1 Cloud Service 側から提供した IP アドレス（CIDR）を設定してください。

> **重要**
>
> このマニュアルに記載の手順でお客様側の AWS Transit Gateway ルートテーブルにルーティング設定を行うため，「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 サービスポータル 利用ガイド」における「1.3.7 ネットワークの操作」を利用したルーティング表示や設定はできません。

2.3.5　その他の設定【お客様側作業】

「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 導入ガイド」における「1.2.2 接続の手順（AWS の場合）」の（3）～（5），「1.2.7 接続確認の手順」，「1.2.8 その他の設定」等を参照し，お客様の環境から JP1 Cloud Service のジョブ管理・システム管理を利用できるように設定をしてください。

付録

付録 A　各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更点を次に示します。

付録 A.1　02-60 の変更内容

- 本サービスで Oracle Cloud Infrastructure（OCI）をサポートした。
- エンベロープ FROM の記載を追加した。

付録 A.2　02-50 の変更内容

- 顧客 DNS 利用の説明と注意事項を追加した。
- システム構成例として，その他の環境でサーバが稼働している場合の記載を追加した。

付録 A.3　02-40 の変更内容

- その他のクラウド環境でサーバが稼働している場合の概要図および説明について削除した。
- 本サービスで Google Cloud をサポートした。
- お客様のパブリック DNS を参照する際の説明を追加した。

付録 A.4　02-30 の変更内容

- オンプレミス環境でサーバが稼働している場合の概要図および説明について削除した。
- その他のクラウド環境でサーバが稼働している場合の概要図および説明について AWS を経由する内容で訂正した。

付録 A.5　02-20 の変更内容

- マニュアルの参照先を訂正した。
- お客様が所有している AWS Transit Gateway でのジョブ管理・システム管理の利用方法の説明を追加した。

付録 A.6　02-10 の変更内容

- オンプレミス環境でサーバが稼働している場合の概要図を訂正した。

付録 A.7　02-01 の変更内容

- 本サービスでインターネット接続における説明を訂正した。
- 本サービスでインターネット接続の接続手順を訂正した。
- サービスポータルにインターネット接続する方法を追加した。

付録 A.8　02-00 の変更内容

- 本サービスでインターネット接続をサポートした。

付録 A.9　01-12 の変更内容

- なし。

付録 A.10　01-11 の変更内容

- このマニュアルの中で参照している「ご利用環境の情報」の名称を変更した。

付録 A.11　01-10 の変更内容

- 本サービスと Azure 環境との接続をサポートした。

付録 B　このマニュアルの参考情報

付録 B.1　製品名の表記

表記		正式名称
JP1/AJS3		JP1/Automatic Job Management System 3
JP1/IM		JP1/Integrated Management
JP1/IM	JP1/IM2	JP1/Integrated Management 2
	JP1/IM3	JP1/Integrated Management 3

付録 C　用語解説

（英字）

AWS Transit Gateway
: VPC や VPN 接続などを接続してネットワークを簡素化するための AWS が提供するサービスです。

AWS Resource Access Manager
: AWS のリソースを任意の AWS アカウントに共有するための AWS が提供するサービスです。

AWS Direct Connect
: AWS の環境と AWS 以外の環境を接続するための AWS が提供するサービスです。

CPE オブジェクト
: OCI 側から見た対向 VPN 装置の定義情報です。

DRG
: OCI 上でネットワーク間接続を提供する仮想ルーターです。

Transit Gateway Attachment
: VPC や VPN 接続を AWS Transit Gateway にアタッチするための AWS が提供する機能です。

VPC
: Amazon Virtual Private Cloud の略で，仮想ネットワークを定義するための AWS が提供するサービスです。

VPN
: Virtual Private Network の略で，インターネット上などに仮想的な専用線を設けて，安全にデータとやり取りをするためのネットワークです。

（ア行）

インターネット VPN
: インターネット回線を利用した VPN です。

（カ行）

カスタマーゲートウェイデバイス
: AWS に VPN 接続する側の物理アプライアンスまたはソフトウェアアプライアンスです。

仮想ネットワークゲートウェイ
: Azure 上の仮想ネットワークと他のネットワークを接続するためのゲートウェイです。

ゲートウェイサブネット
: Azure 上でゲートウェイを配置するためのネットワーク領域です。

（サ行）

ジョブ管理マネージャー
: 複数の業務の内容と実行順序を定義し，保存した定義を自動で実行することによって，業務の運用を管理する機能です。主に以下の構成物から構成されます。

  - JP1/AJS3 - Manager
  - JP1/Base

ジョブ管理ビューアー
: ジョブ管理マネージャーを操作するための機能です。主に以下の構成物から構成されます。

  - JP1/AJS3 - View

ジョブ実行エージェント
: ジョブ管理マネージャーから指示されたジョブを実行する機能です。主に以下の構成物から構成されます。

  - JP1/AJS3 - Agent
  - JP1/Base

（ラ行）

ローカルネットワークゲートウェイ
: Azure においてルーティング目的でオンプレミスの場所を表すオブジェクトです。

索引

A

AWS Direct Connect〔用語解説〕 42
AWS Resource Access Manager〔用語解説〕 42
AWS Transit Gateway〔用語解説〕 42

C

CPE オブジェクト〔用語解説〕 42

D

DRG〔用語解説〕 42

T

Transit Gateway Attachment〔用語解説〕 42

V

VPC〔用語解説〕 42
VPN〔用語解説〕 42

い

インターネット VPN〔用語解説〕 42

お

お客様所有 AWS Transit Gateway でのジョブ管理・システム管理の利用方法 32
お客様の環境との接続 13
- お客様が AWS のアカウントを保有している場合 13
- お客様が Azure のアカウントを保有している場合 13

か

カスタマーゲートウェイデバイス〔用語解説〕 43
仮想ネットワークゲートウェイ〔用語解説〕 43

け

ゲートウェイサブネット〔用語解説〕 43

し

システム構成 12
システム構成例 15
- AWS 環境 15
- Azure 環境 15

ジョブ管理ビューアー〔用語解説〕 43
ジョブ管理マネージャー〔用語解説〕 43
ジョブ管理・システム管理の利用方法 11
ジョブ実行エージェント〔用語解説〕 43

せ

接続確認の手順 28
接続の手順（AWS の場合） 20
接続の手順（Azure の場合） 22
接続の手順(Google Cloud の場合) 24
接続の手順（OCI の場合） 26
接続の手順（インターネット接続の場合）（V02-00 以降） 28

そ

操作方法 31
その他の設定 29
- DNS サフィックスの設定（ジョブ実行エージェント） 29
- 運用開始後の接続環境の変更 30
- ドメインの許可 29

ね

ネットワーク区域 13

ろ

ローカルネットワークゲートウェイ〔用語解説〕 43

株式会社 日立製作所

〒 100–8280　東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 6 号